

ヨハネの手紙第一5章9-10節 「神の証し」

1A 父なる神の証し 9

1B 人の証し

2B 神の証し

2A 信じる者 10

1B 内なる証し

2B 不信者の問題

本文

ヨハネの手紙第一 5 章を開いてください、今晚は 9-10 節を見ていきます。「⁹ 私たちが人の証しを受け入れるのであれば、神の証しはそれにまさるものです。御子について証しされたことが、神の証しなのですから。¹⁰ 神の御子を信じる者は、その証しを自分のうちに持っています。神を信じない者は、神を偽り者としています。神が御子について証しされた証言を信じていないからです。」

私たちは、水と血によってイエス・キリストが来られたということを、御霊が証しておられるという話を前回、学びました。続けて、証しについて見ていきます。9-10 節では、人の証しもあるが、それ以上に、神ご自身の証しがあって、神が御子について証しておられるという内容です。

私たちは、キリストを信じる人の証しによって、この方がおられることを知ることはできますね。けれども、神ご自身がご自分について証しされるとき、神の御子について証しされる時、それは強力な証しです。例えば私たちは、ローマ人への手紙で、被造物には神が啓示されていると学びました。そして聖書預言はいかがでしょうか？旧約聖書に書かれていることが、そこで預言されていることが、あまりにも正確に何百年後に成就し、イエス様についてのことも成就しているという事実です。神が永遠の方であられ、初めから終わりのことを知らせる方であることが証しされています。そういった、神の証しについて見ていきましょう。

1A 父なる神の証し 9

⁹ 私たちが人の証しを受け入れるのであれば、神の証しはそれにまさるものです。御子について証しされたことが、神の証しなのですから。

1B 人の証し

私たちは、人の証しを聞いて、それであることが事実であることを確認しますね。この前は、横田めぐみさんのご両親、横田滋さんと早紀江さんのこととお話しましたが、彼らの証言によって北朝鮮にめぐみさんが拉致されたことが国民に知れ渡り、それがいかに深刻な人権侵害であるか知

れ渡りました。人の証しはこのように力強いです。

イエス・キリストについての証しは、なおのこと力強いことを私たちは知っています。バプテスマのヨハネが、この方が神の御子であることを次のように証しました。「ヨハ 1:32-34 そして、ヨハネはこのように証した。「御霊が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを私は見ました 33 私自身もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けるようにと私を遣わした方が、私に言われました。『御霊が、ある人の上に降って、その上にとどまるのをあなたが見たら、その人こそ、聖霊によってバプテスマを授ける者である。』34 私はそれを見ました。それで、この方が神の子であると証しをしているのです。」イエス様は、このヨハネをあなたがたは、預言者だと認めているのではないかと話しておられます。「5:33 あなたがたはヨハネのところを人を遣わしました。そして彼は真理について証しました。」もし、私たちがあることがとても信じられないでいるけれども、自分たちがとても信頼する人が、「いや、彼は真実な人だ」と言ったら、信用しないでしょうか？自分たちの信頼している人がそう言っているのであれば、しかも彼はその人のそばにいた。だったら、この人は真実な人だろう、ということになるでしょう。それをイエス様は言われているのです。ユダヤ人の間で預言者だと認められていたヨハネが、イエスが神の御子であることを証しているのです。

バプテスマのヨハネだけでなく、使徒たちも証しをしました。第一の手紙を書いている使徒ヨハネはこう言っています。「Ⅰヨハ 1:1-2 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、自分の目で見たもの、じっと見つめ、自分の手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて。2 このいのちが現れました。御父とともにあり、私たちに現れたこの永遠のいのちを、私たちは見たので証して、あなたがたに伝えます。」使徒ヨハネは、何度となく自分がイエスを間近に見て、物理的にそばにいたことを証しています。そして使徒ペテロも、証しをしています。「Ⅱペテ 1:16 私たちはあなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせましたが、それは、巧みな作り話によったものではありません。私たちは、キリストの威光の目撃者として伝えたのです。」高い山に、ペテロ、ヨハネ、ヤコブで上った時に、イエス様の姿が変貌したことを話しています。

そして、他の使徒たちも復活のイエス様を見たということを証していったことが、使徒の働きに書かれている内容です。

2B 神の証し

このように、イエス様についての人の証しがあるけれども、神の証しはそれ以上のものですよ？というのがヨハネがここで言っていることです。イエス様ご自身が、バプテスマのヨハネは真実を語っていると言われましたが、父なる神の証しはもっと優れていると語っておられます。「ヨハ 5:36-37 しかし、わたしにはヨハネの証しよりもすぐれた証しがあります。わたしが成し遂げるようにと父が与えてくださったわざが、すなわち、わたしが行っているわざそのものが、わたしについて、

父がわたしを遣わされたことを証しているのです。37 また、わたしを遣わされた父ご自身が、わたしについて証しをしてくださいました。あなたがたは、まだ一度もその御声を聞いたことも、御姿を見たこともありません。」

父なる神が直接、証しをされた出来事は三回あります。一つはイエス様がバプテスマを受けられた時、次に、高い山での変貌、それから、最後の週でエルサレムの神殿に主がおられた時です。初めのバプテスマの時、「マタ 3:17 天から声があり、こう告げた。『これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。』』」と言われました。そして、高い山においてイエス様が栄光の姿に変貌された後、雲の中から、「マタ 17:5 これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け。」という言葉をかけられました。そして、イエス様がエルサレムに入城されて、神殿の敷地におられた時、ギリシア人がお目にかかりたいと言ってきました。それを聞いた弟子たちがイエス様に伝えた後に、イエス様は、「ヨハ 12:28 父よ、御名の栄光を現してください。」と言われました。「すると、天から声が聞こえた。「わたしはすでに栄光を現した。わたしは再び栄光を現そう。」

2A 信じる者 10

^{10a} 神の御子を信じる者は、その証しを自分のうちに持っています。

1B 内なる証し

神が御子について、ご自身で証ししておられますが、その証しを受け入れる者たちには、御霊によってその真理に確証を与えます。ここは、私たちはどうしても言葉で説明するのが難しい。御霊が私たちの内に教えておられるからです。「ロマ 8:15-16 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。16 御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいます。」そして、コリントの人たちに、こう言いました。「I コリ 1:6 キリストについての証しが、あなたがたの中で確かなものとなったからです。」

私たちは御霊が与えられ、この方が真理であるという確証が与えられ、そのことにしたがって礼拝を献げています。「ヨハ 4:23-24 しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。24 神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」

2B 不信者の問題

^{10b} 神を信じない者は、神を偽り者としています。神が御子について証しされた証言を信じていないからです。

神を信じない人の問題です。神が証しを御子について証しておられるのですが、それを信じないということは、神ご自身が偽りを言っていると言っていることになります。誰かが証言しているのに、「信じない」と言ったら、その人が嘘をついているということになりますね。それを神に対して行っているのです。

しかし、神は真実な方です。偽ることのできない方です。「民 23:19 神は人ではないから、偽りを言うことがない。人の子ではないから、悔いることがない。神が仰せられたら、実行されないだろうか。語られたら、成し遂げられないだろうか。」また、パウロはユダヤ人たちの不真実によって、神の真実は否定されることはないと話しています。神は真実な方だということは、聖書が啓示している根本的な教えです。「ロマ 3:4a 決してそんなことはありません。たとえすべての人が偽り者であるとしても、神は真実な方であるとすべきです。」

信じない人がいても、それによって真理が変わるのではありません。例えば、数学の先生が、「一＋一は二です」と教えて、「私はそれを信じません」と言ったら、先生が嘘をついているということになります。けれども、自分が信じないことによって、先生を嘘つきにできるのでしょうか？いいえ、一＋一は二なのです。ただ、自分の愚かさを表してしまっているにすぎません。つまり、信じている、信じていないというのは関係ないのです。真理は真理として残っており、神は真実な方なのです。イエスが神の御子である、キリストであるとは信じないと言ったところで、イエスがそうではなくなることはないのです。変わるの何か？そう、自分の定めです。信じる者は救われるが、信じない者は罪に定められていると、イエス様は言われました。

けれども、御子を信じる者は、神が真実であると認めているのです。「ヨハ 3:31-33 上から来られる方は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地のことを話す。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。32 この方は見たこと、聞いたことを証されるが、だれもその証しを受け入れない。33 その証しを受け入れた者は、神が真実であると認める印を押したのである。」

そしてこれが、神が望まれていることです。いつも神の真実が自分の心に置かれているようになって望まれています。「ヘブル 6:17-18 そこで神は、約束の相続者たちに、ご自分の計画が変わらないことをさらにはっきり示そうと思い、誓いをもって保証されました。18 それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。」私たちが信仰をもって神に祈り、みことばを読み、御霊によって神の真理が明らかにされ、それが私たちの心に刻み込まれます。そして、こんどは聖霊の力によって、その真理を人々に証していく務めにあずかっています。